令和５年９月市長定例記者会見

日時：令和５年８月３１日（木）　午後２時００分～
場所：射水市役所会議室３０２
報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、北日本放送、射水 CATV、庄東タイムズ・ホットライン小杉
当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、教育委員会事務局次長(生涯学習・スポーツ課長)、生活安全課長、ワクチン接種推進班主任

〇質疑応答の概要

Ｑ１．　県内の他自治体でもＡＩオンデマンドバスの実証実験を行っていると思う。他自治体と比較した「のるーといみず」の特徴を教えていただきたい。

Ａ１．　実証運行する「のるーといみず」のメリットは、タクシーと路線バスのメリットを兼ね備えていることである。アプリや市ＬＩＮＥ公式アカウントから予約可能であり、デジダルを使っていない方も利用できるように電話からの予約も可能である。人工知能でルートを示すため、直前でもキャンセルできる。

　本システムの事業者は、ネクストモビリティ株式会社である。西日本鉄道株式会社と三菱商事株式会社が共同出資する会社で、事業者・自治体向けに交通ソリューションを提供している。全国１３か所でＡＩオンデマンドバスの実装実績を有している。

Ｑ２．　実証運行のあとはどのような展開を予定しているか。

Ａ２．　実証運行において、利用者アンケートをとって運行時間や運賃の設定が妥当か検討させていただく。また、ＡＩは学習しながら能力を高めるものである。ルーティング情報を蓄積・学習し、本格導入をした場合でも、精度を高めていくことを実証していくことができればと考えている。効果が高いことが確認できたら、本格導入をして、他の地域へも展開も図っていきたい。他の地域へも展開するとなると、一度に展開するのではなく、台数の確保、事前の学習のデータ収集も関係するため、実証しながら段階的に導入していくことになる。

現在、バスの運転手の確保が難しい状況である。コミュニティバスは定時定路線で運行しているが、平日は利用者がいるのに対して、土日祝日は利用者が少ないなど曜日によって利用頻度が異なる。利用される市民の皆さんからは、乗りたい時間に便がないという意見もいただいている。ＡＩオンデマンドバスの導入で、ニーズに応えることができたらと考えている。

Ｑ３．　「のるーといみず」で使用する車両は３台で合っているか。

Ａ３．　バスの台数は、コミュニティバス利用者がＡＩオンデマンドバスの利用にどの程度利用転換するかによって決定する。今回の実証運行では、日中のコミュニティバス利用者の約７割が、オンデマンドバスへ利用転換しても対応可能なように３台とする。

Ｑ４．　今回使用する車両の乗車定員と実証運行のエリアを小杉駅の南にした理由を教えていただきたい。

Ａ４．　実証運行で使う車は、１０人～１４人乗りのハイエースコミューターを予定している。

小杉駅南は、複数のコミュニティバスが運行しており、人口密度も高く、面的な移動需要があるエリアである。そのため、ＡＩオンデマンドシステムの導入による、運行の効率化が見込めると考え実証運行のエリアを小杉駅南とした。現在、複数の路線が入りこんでおり、利用者は目的地によってバスの路線を選ぶ必要がある。ＡＩオンデマンドバスを導入することで、エリア内の移動の際に、予約をすれば、バス路線を選ばなくても目的地に行くことができ、利便性の効果を発揮できる。

Ｑ５．　北陸新幹線の延線が現実的になってきた。射水市としては開業に向けて、観光のＰＲはどのように行うのか。

Ａ５．　来年予定されている「北陸ディスティネーションキャンペーン」は大きな取組になる。それに向けてプレイベントの１つとして、エクスカーション（体験型見学会）で、射水のナイトクルーズや宿泊、食事が組み込まれることは喜ばしい。これを機会に、内川や射水の魅力を関西圏にＰＲしながら、観光客の獲得に努めたい。

また、射水だけではなく、呉西エリアや、富山県、北陸３県を関西方面に対してアピールし、北陸への意識をもっていただくきっかけづくり、しかけを作っていきたい。具体的な取組については、検討していろいろな方と協力していけたらと考えている。